

(様式第 10)

鳥大医療第 16-1 号  
平成 2

厚生労働大臣

殿

鳥取大学医学部附属病  
病院長 北野

鳥取大学医学部附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）第 12 条の 3 第の規定に基づき、平成 25 年度の業務に関して報告します。

記

1 開設者の住所及び氏名

住 所	〒680-8550 鳥取県鳥取市湖山町南4丁目101
氏 名	国立大学法人 鳥取大学

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名 称

鳥取大学医学部附属病院
-------------

3 所在の場所

〒683-8504 鳥取県米子市西町36番地の1	電話(0859)33-1111
-----------------------------	-----------------

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

①医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、十六診療科名すべてを標榜
2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	①	無
内科と組み合わせた診療科名等		
1呼吸器内科	2消化器内科	3循環器内科
4腎臓内科	5神経内科	6血液内科
7内分泌代謝内科	8感染症内科	9アレルギー科
10リウマチ科	11	12
診療実績		

(注) 1 「内科」欄及び「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「リウマチ科」及び「アレルギー科」についても、「内科と組み合わせた診療科等」欄に記入すること。

(注) 3 「診療実績」欄については、医療法施行規則第六条の四第三項の規定により、他の診療科で医療を提供している場合に記入すること。

(2) 外科

外科	有	・	<input type="radio"/>	無
外科と組み合わせた診療科名				
1消化器外科 2乳腺内分泌外科 3心臓血管外科 4小児外科 5	6			
7 8 9 10 11	12			
診療実績				

(注) 1 「外科」欄及び「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「診療実績」欄については、医療法施行規則第六条の四第三項の規定により、他の診療科で医療を提供している場合に記入すること。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

<input type="radio"/> 1精神科 <input type="radio"/> 2小児科 <input type="radio"/> 3整形外科 <input type="radio"/> 4脳神経外科 <input type="radio"/> 5皮膚科 <input type="radio"/> 6泌尿器科 <input type="radio"/> 7産婦人科
8産科 9婦人科 <input type="radio"/> 10眼科 <input type="radio"/> 11耳鼻咽喉科 <input type="radio"/> 12放射線科 13放射線診断科
<input type="radio"/> 14放射線治療科 <input type="radio"/> 15麻酔科 <input type="radio"/> 16救急科

(注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科	有	・	<input type="radio"/>	無
歯科と組み合わせた診療科名				
1歯科口腔外科 2 3 4 5 6 7				
歯科の診療体制				
本院は歯科医師を有する特定機能病院である。				

(注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1膠原病内科 2胸部外科 3頭頸部外科 4薬物療法内科 5形成外科 6脳神経小児科
7病理診断科 8神経病理診断科 9 10 11 12
13 14 15 16 17 18

(注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
40 床	2 床	6 床	0 床	649 床	697 床

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

(平成26年10月1日現在)

職種	常勤	非常勤	合計	職種	員数	職種	員数
医師	329人	70人	376.2人	看護補助者	69人	診療エックス線技師	0人
歯科医師	11人	7人	14.3人	理学療法士	16人	臨床検査技師	46人
薬剤師	39人	0人	39人	作業療法士	7人	衛生検査技師	0人
保健師	0人	0人	0人	視能訓練士	4人	その他	0人
助産師	37人	1人	38人	義肢装具士	0人	あん摩マッサージ指圧師	0人
看護師	665人	12人	674.7人	臨床工学技師	14人	医療社会事業従事者	9人
准看護師	0人	0人	0人	栄養士	1人	その他の技術員	26人
歯科衛生士	3人	1人	4人	歯科技工士	2人	事務職員	226人
管理栄養士	8人	0人	8人	診療放射線技師	37人	その他の職員	30人

- (注) 1 申請前半年以内のある月の初めの日における員数を記入すること。  
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。  
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

(平成26年10月1日現在)

専門医名	人数	専門医名	人数
総合内科専門医	22人	眼科専門医	16人
外科専門医	34人	耳鼻咽喉科専門医	13人
精神科専門医	5人	放射線科専門医	16人
小児科専門医	33人	脳神経外科専門医	7人
皮膚科専門医	6人	整形外科専門医	13人
泌尿器科専門医	8人	麻酔科専門医	14人
産婦人科専門医	14人	救急科専門医	3人
		合計	204人

- (注) 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	609.3人	13.8人	623.1人
1日当たり平均外来患者数	1358.9人	73.1人	1432.0人
1日当たり平均調剤数	入院：828.3剤、外来：238.8剤		
必要医師数	99人		
必要歯科医師数	5人		
必要薬剤師数	14人		
必要(准)看護師数	360人		

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。  
 2 入院患者数は、年間の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。  
 3 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除し

た数を記入すること。

4 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。

5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要（准）看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

### 9 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設備概要			
集中治療室	1112 m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	病床数	30床	心電計	有・無
			人工呼吸装置	有・無	心細動除去装置	有・無
			その他の救急蘇生装置	有・無	ペースメーカー	有・無
無菌病室等	[固定式の場合] 床面積 321 m <sup>2</sup> [移動式の場合] 台数 15台		病床数 26床			
医薬品情報管理室	[専用室の場合] 床積 54 m <sup>2</sup> [共用室の場合] 共用する室名					
化学検査室	453.2m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	(主な設備) 生化学自動分析装置、全自動化学発光酵素免疫測定装置			
細菌検査室	127.5 m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	(主な設備) 全自動同定感受性検査装置、血液培養装置			
病理検査室	111.9 m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	(主な設備) 自動免疫染色装置、自動染色装置、バーチャル・スライド方式による遠隔病理画像診断システム			
病理解剖室	8.4m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	(主な設備) 病理解剖台			
研究室	6,069m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	(主な設備) 中央実験台、フリーザー、ドラフトチャンパー等			
講義室	406m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	室数	2室	収容定員	366人
図書室	1,634m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	室数	6室	蔵書数	680,000冊程度

(注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。

2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

### 10 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

算定期間		平成26年4月1日～平成26年8月31日	
紹介率	82.1%	逆紹介率	65.5%
算出根拠	A: 紹介患者の数	5,105人	
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数	4,933人	
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数	1,072人	
	D: 初診の患者の数	7,527人	

(注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。





(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要 該当ありません。			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

## (様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

## 4 特定疾患治療研究事業対象疾患についての診療

疾患名	取扱患者数	疾患名	取扱患者数
・ベーチェット病	32人	・膿疱性乾癬	1人
・多発性硬化症	45人	・広範脊柱管狭窄症	6人
・重症筋無力症	75人	・原発性胆汁性肝硬変	44人
・全身性エリテマトーデス	133人	・重症急性膵炎	4人
・スモン	2人	・特発性大腿骨頭壊死症	20人
・再生不良性貧血	17人	・混合性結合組織病	22人
・サルコイドーシス	94人	・原発性免疫不全症候群	2人
・筋萎縮性側索硬化症	31人	・特発性間質性肺炎	21人
・強皮症、皮膚筋炎及び多発性筋炎	122人	・網膜色素変性症	9人
・特発性血小板減少性紫斑病	40人	・プリオン病	2人
・結節性動脈周囲炎	31人	・肺動脈性肺高血圧症	5人
・潰瘍性大腸炎	60人	・神経線維腫症	25人
・大動脈炎症候群	17人	・亜急性硬化性全脳炎	0人
・ビュルガー病	7人	・バッド・キアリ(Budd-Chiari)症候群	3人
・天疱瘡	12人	・慢性血栓塞栓性肺高血圧症	7人
・脊髄小脳変性症	44人	・ライソゾーム病	3人
・クローン病	23人	・副腎白質ジストロフィー	2人
・難治性の肝炎のうち劇症肝炎	2人	・家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	0人
・悪性関節リウマチ	7人	・脊髄性筋萎縮症	2人
・パーキンソン病関連疾患(進行性核上性麻痺、 大脳皮質基底核変性症及びパーキンソン病)	203人	・球脊髄性筋萎縮症	5人
・アミロイドーシス	8人	・慢性炎症性脱髄性多発神経炎	10人
・後縦靭帯骨化症	57人	・肥大型心筋症	2人
・ハンチントン病	3人	・拘束型心筋症	1人
・モヤモヤ病(ウリス動脈輪閉塞症)	26人	・ミトコンドリア病	1人
・ウェゲナー肉芽腫症	15人	・リンパ脈管筋腫症(LAM)	5人
・特発性拡張型(うっ血型)心筋症	66人	・重症多形滲出性紅斑(急性期)	0人
・多系統萎縮症(線条体黒質変性症、オリブ橋 小脳萎縮症及びシャイ・ドレーガー症候群)	23人	・黄色靭帯骨化症	6人
・表皮水疱症(接合部型及び栄養障害型)	0人	・間脳下垂体機能障害 (PRL分泌異常症、ゴナドトロピン分泌異常症、ADH 分泌異常症、下垂体性TSH分泌異常症、クッシング 病、先端巨大症、下垂体機能低下症)	68人

(注) 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。



(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・地域歯科診療支援病院歯科初診料	・総合評価加算
・歯科外来診療環境体制加算	・呼吸ケアチーム加算
・歯科診療特別対応連携加算	・データ提出加算2
・特定機能病院入院基本料(一般・結核7対1、精神15対1)	・地域歯科診療支援病院入院加算
・臨床研修病院入院診療加算(医科:基幹型、歯科:管理型)	・救命救急入院料3、4
・救急医療管理加算	・特定集中治療室管理料4
・超急性期脳卒中加算	・総合周産期特定集中治療室管理料1、2
・妊産婦緊急搬送入院加算	・小児入院医科管理料2
・診療録管理体制加算2	・
・急性期看護補助体制加算(50対1)	・
・看護補助加算1	・
・療養環境加算	・
・重症者等療養環境特別加算	・
・無菌治療室管理加算1、2	・
・緩和ケア診療加算	・
・精神病棟入院時医学管理加算	・
・精神科身体合併症管理加算	・
・がん診療連携拠点病院加算	・
・栄養サポートチーム加算	・
・医療安全対策加算1	・
・感染防止対策加算1	・
・褥瘡ハイリスク患者ケア加算	・
・ハイリスク妊娠管理加算	・
・ハイリスク分娩管理加算	・
・退院調整加算	・
・救急搬送患者地域連携紹介加算	・

## (様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

## 6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・植込型除細動器移行期加算	・植込型心電図検査
・高度難聴指導管理料	・時間内歩行試験
・糖尿病合併症管理料	・胎児心エコー法
・がん性疼痛緩和指導管理料	・ヘッドアップティルト試験
・がん患者指導管理料1、2、3	・人工膵臓
・外来緩和ケア管理料	・皮下連続式グルコース測定
・移植後患者指導管理料(造血幹細胞移植後)	・長期継続頭蓋内脳波検査
・糖尿病透析予防指導管理料	・光トポグラフィー
・院内トリアージ実施料	・神経学的検査
・外来放射線照射診療料	・補聴器適合検査
・ニコチン依存症管理料	・コンタクトレンズ検査料1
・地域連携診療計画管理料	・小児食物アレルギー負荷検査
・がん治療連携計画策定料	・内服・点滴誘発試験
・がん治療連携管理料	・センチネルリンパ節生検(単独)
・肝炎インターフェロン治療計画料	・画像診断管理加算1, 2
・薬剤管理指導料	・ポジトロン断層撮影、ポジトロン断層・コンピュータ断層複合撮影
・医療機器安全管理料1、2、歯科	・CT撮影及びMRI撮影
・歯科治療総合医療管理料	・冠動脈CT撮影加算
・在宅患者訪問看護・指導料	・外傷全身CT加算
・同一建物居住者訪問看護・指導料	・心臓MRI撮影加算
・持続血糖測定器加算	・抗悪性腫瘍剤処方管理加算
・造血器腫瘍遺伝子検査	・外来化学療法加算1
・HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)	・無菌製剤処理料
・体検査管理加算Ⅰ、Ⅳ	・心大血管疾患リハビリテーション料(Ⅰ)
・遺伝カウンセリング加算	・脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅰ)
・心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算	・運動器リハビリテーション料(Ⅰ)

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ)	・経皮的冠動脈形成術
・がん患者リハビリテーション料	・経皮的冠動脈ステント留置術
・歯科口腔リハビリテーション料2	・経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)
・認知療法・認知行動療法1	・経皮的中隔心筋焼灼術
・精神科作業療法	・ペースメーカー移植術・交換術
・抗精神病特定薬剤治療指導管理料(治療抵抗性統合失調症治療指導管理料に限る。)	・植込型心電図記録計移植術及び植込型心電図記録計摘出術
・医療保護入院等診療料	・両心室ペースメーカー移植術・交換術
・エタノールの局所注入(甲状腺)	・植込型除細動器移植術・交換術
・磁気による膀胱等刺激法	・経静脈電極抜去術(レーザーシースを用いるもの)
・一酸化窒素吸入療法	・両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術・交換術
・歯科技工加算	・大動脈バルーンパンピング法(IABP法)
・悪性黒色腫センチネルリンパ節加算	・補助人工心臓
・骨移植術(軟骨移植術を含む。)(自家培養軟骨移植術に限る。)	・植込型補助人工心臓(拍動流型)
・腫瘍脊椎骨全摘術	・植込型補助人工心臓(非拍動流型)
・頭蓋骨形成手術(骨移動を伴うものに限る。)	・経皮的大動脈遮断術
・脳刺激装置植込術(頭蓋内電極植込術を含む。) ・交換術	・腹腔鏡下小切開骨盤内リンパ節群郭清術
・脊髄刺激装置植込術・交換術	・腹腔鏡下小切開後腹膜リンパ節群郭清術
・治療的角膜切除術(エキシマレーザーによるもの(角膜ジストロフィー又は帯状角膜変性に係るものに限る。))	・ダメージコントロール手術
・緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの))	・体外衝撃波胆石破碎術
・網膜付着組織を含む硝子体切除術(眼内内視鏡を用いるもの)	・腹腔鏡下肝切除術
・網膜再建術	・生体部分肝移植術
・人工内耳植込術	・体外衝撃波腓石破碎術
・植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術	・腹腔鏡下腓体尾部腫瘍切除術
・内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型(拡大副鼻腔手術)	・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
・上顎骨形成術(骨移動を伴うものに限る。)(歯科診療に係るものに限る。)、下顎骨形成術(骨移動を伴うものに限る(歯科診療に係るものに限る。))	・腹腔鏡下小切開副腎摘出術
・乳がんセンチネルリンパ節加算2	・体外衝撃波腎・尿管結石破碎術

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・腹腔鏡下小切開腎部分切除術、腹腔鏡下小切開腎摘出術、腹腔鏡下小切開腎(尿管)悪性腫瘍手術	・直線加速器による定位放射線治療
・腎腫瘍凝固・焼灼術(冷凍凝固によるもの)	・定位放射線治療呼吸性移動対策加算
・生体腎移植術	・テレパソロジーによる術中迅速病理組織標本作製
・腹腔鏡下小切開尿管腫瘍摘出術	・テレパソロジーによる術中迅速細胞診
・膀胱水圧拡張術	・病理診断管理加算2
・腹腔鏡下小切開膀胱腫瘍摘出術	・口腔病理診断管理加算2
・腹腔鏡下小切開膀胱悪性腫瘍手術	・クラウンブリッジ維持管理料
・人工尿道括約筋植込・置換術	・歯科矯正診断料
・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術	・顎口腔機能診断料
・腹腔鏡下小切開前立腺悪性腫瘍手術	・
・胎児胸腔・羊水腔シヤント術	・
・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに限る。)	・
・医科点数表第2章第10部手術の通則の5及び6(歯科点数表第2章第9部の通則4を含む。)に掲げる手術	・
・輸血管管理料Ⅰ、輸血適正使用加算	・
・人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算	・
・内視鏡手術用支援機器加算	・
・歯周組織再生誘導手術	・
・広範囲顎骨支持型装置埋入手術	・
・麻酔管理料Ⅰ、Ⅱ	・
・放射線治療専任加算	・
・外来放射線治療加算	・
・高エネルギー放射線治療	・
・1回線量増加加算	・
・強度変調放射線治療(IMRT)	・
・画像誘導放射線治療(IGRT)	・
・体外照射呼吸性移動対策加算	・

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

7 健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・インプラント義歯	・
・筋強直性ジストロフィーの遺伝子診断	・
・超音波骨折治療法	・
・根治的前立腺全摘除術における内視鏡下手術用ロボット支援	・
・光トポグラフィー検査を用いたうつ症状の鑑別診断補助	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(注) 1 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入しなくともよいこと。  
(注) 2 「施設基準等の種類」欄には、特定機能病院の名称の承認申請又は業務報告を行う3年前の4月以降に、健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法(平成六年厚生省告示第五十四号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

8 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	① 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	年15～20回程度
部 検 の 状 況	部検症例数 22例 / 部検率 4.30%

(様式第3)

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

### 1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
脳梗塞症罹患後安定期における健康寿命阻害因子の分析と予防法構築のための研究	古和 久典	神経内科	500,000	補委 日本学術振興会 科学研究費補助金
非生毛部に生じた悪性黒色腫に対する表皮基底面の走査型電子顕微鏡学的観察	吉田 雄一	皮膚科	600,000	補委 日本学術振興会 科学研究費補助金
消化器癌患者におけるT細胞機能低下メカニズムの検討とその制御による免疫治療の開発	齊藤 博昭	第一外科診療科群	1,000,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業助成金
インスリン様成長因子-1の転写因子と結合蛋白の異常による成長ホルモン不応症の解明	神崎 晋	小児科	1,200,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業助成金
認知矯正療法の効果に関する神経機能画像を用いた研究	兼子 幸一	精神科	1,600,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業助成金
多系統萎縮症の早期診断を目指した基礎的および臨床的研究	小川 敏英	放射線診療科群	1,100,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業助成金
Vandetanibによるグリオーマ播種病変制御の試み	渡辺 高志	脳神経外科	700,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業助成金
卵巣明細胞腺癌に対するFGFR2を標的とした新規治療法の開発	板持 広明	女性診療科群	800,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業助成金
血球貪食症を伴う慢性活動性EBV感染症ウサギモデルの病態解析	林 一彦	病理部	900,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業助成金
軽度パーキンソン徴候から認知症・パーキンソン病への進行に関する縦断的疫学研究	中島 健二	神経内科	1,100,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業助成金
睡眠時無呼吸症候群による時計遺伝子を介した分子生物学的影響に関する研究	鱒岡 直人	第三内科診療科群	900,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業助成金
脳波コヒーレンス解析による急性脳症の早期診断	前垣 義弘	脳神経小児科	500,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業助成金
低真空走査型電子顕微鏡を用いた巣状糸球体硬化症の早期診断	岡田 晋一	小児科	500,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業助成金
拡張不全患者におけるカルニチン慢性投与が心機能・骨格筋機能に及ぼす効果の検討	山本 一博	第一内科診療科群	1,700,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業助成金
複数神経栄養因子による生存シグナル増強 一問葉系幹細胞と人工染色体の利用ー	渡辺 保裕	神経内科	1,400,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業助成金
インクレチン経路からみた小児メタボリック症候群への新たな介入方法の開発	花木 啓一	小児科	1,300,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業助成金
骨粗鬆症性骨折の危険因子と予防に関する研究	萩野 浩	リハビリテーション部	2,600,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業助成金
網羅的分子解析によるウイルス性角膜炎の病態解明	井上 幸次	眼科	1,000,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業助成金
癌形質を消失させるマイクロRNA群の薬物応用への試み	三浦 典正	薬物療法内科	800,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業助成金
子宮内膜症組織に発現する新規エストロゲン受容体バリエーション群の分子基盤解析	原田 省	女性診療科群	1,400,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業助成金
血管移植併用緑内障手術の開発	金田 周三	眼科	500,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業助成金
肺癌に対する抗EGFR抗体の感受性因子の探索と新しい併用療法の開発	高田 美也子	第三内科診療科群	1,400,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業助成金
黄砂を含む越境大気汚染物質の長期影響としての発癌性評価	倉井 淳	第三内科診療科群	2,300,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業助成金
疫学調査に基づく前頭側頭葉変性症の病態解明	足立 正	神経内科	1,900,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業助成金
EAATを介する中枢性排尿調節メカニズムの包括的解明	引田 克弥	泌尿器科	900,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業助成金

小計25件

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
喫煙による精巣上体精子の成熟障害誘発に関する研究	武中 篤	泌尿器科	1,200,000	補委	日本学術振興会 科学研究費補助金
閉塞性肺疾患におけるビタミンの役割	山崎 章	第三内科診療科群	1,000,000	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業助成金
変異型アミロイドβ蓄積機構の解明	和田 健二	神経内科	1,000,000	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業助成金
神経疾患合併RBDの意義と早期介入に対する検討	野村 哲志	神経内科	500,000	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業助成金
黄砂曝露による健康影響の評価	大谷 眞二	第一外科診療科群	400,000	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業助成金
転写因子Nrf2活性化による急性肺傷害の保護に関する研究	持田 晋輔	麻酔診療科群	1,100,000	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業助成金
黄砂および越境大気汚染の児童健康に対する短期影響と屋外活動リスクの評価	渡部 仁成	第三内科診療科群	3,100,000	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業助成金
分子標的薬のPK解析とメタボロミクスを駆使した高精密治療戦略法の構築	島田 美樹	薬剤部	1,200,000	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業助成金
拡張不全に対する新たな治療の開発 — ノックアウトマウスを用いた検討 —	荻野 和秀	検査部	1,400,000	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業助成金
新規受容体SNSRを介する排尿機能調節機構の解明	本田 正史	泌尿器科	1,400,000	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業助成金
卵巣明細胞腺癌におけるPI3K阻害薬の至適併用療法選択と感受性子測マーカー探索	大石 徹郎	女性診療科群	2,200,000	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業助成金
広く見え、指のような触覚をもつ内視鏡の開発	植木 賢	次世代高度医療推進センター	900,000	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業助成金
TLR経路による角膜内皮機能抑制機構の解明	石倉 涼子	眼科	1,200,000	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業助成金
加齢黄斑変性の戦略的な疾患特異遺伝子探索と治療応用	馬場 高志	眼科	1,500,000	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業助成金
角膜内皮と線維柱帯は、免疫ネットワーク制御をうけるのか:戦略的病態解明と治療開発	宮崎 大	眼科	1,100,000	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業助成金
低酸素応答への介入による非脱分極性筋弛緩薬の肺保護効果についての研究	船木 一美	麻酔診療科群	1,300,000	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業助成金
レビー小体型認知症の診断バイオマーカーの探索	中下 聡子	リハビリテーション部	500,000	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業助成金
アルツハイマー型認知症早期血液診断マーカーの臨床応用へ向けての測定システムの確立	谷口 美也子	ワークライフバランス支援センター	1,100,000	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業助成金
ストレスがIL-1βを放出させる機序の解明:うつ病治療の新たなターゲットを探して	岩田 正明	精神科	1,900,000	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業助成金
SEREX法を応用したハイリスク甲状腺腫瘍の血清学的スクリーニング法の開発	伊澤 正一郎	第一内科診療科群	1,300,000	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業助成金
パーキンソン病モデル細胞におけるαシヌクレインとSOCE機構の関連についての研究	伊藤 悟	高次集中治療部	2,000,000	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業助成金
Ifチャネルを指標としたヒトES細胞由来ベースメーカ細胞分取と拍動制御機構の解明	森川 久未	次世代高度医療推進センター	1,100,000	補委	日本学術振興会 科学研究費補助金
治療フィデリティと目標設定は認知矯正療法の効果に影響を与えるか	最上 多美子	臨床心理	500,000	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業助成金
LQT1型iPS由来心筋を用いたHsp70による変異チャンネル蛋白安定化治療	久留 一郎	第一内科診療科群	1,500,000	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業助成金
レチノイドによる細胞内分子制御による肝細胞癌の抗癌剤感受性増強効果	汐田 剛史	第二内科診療科群	1,300,000	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業助成金
軽度認知障害のアルツハイマー病への移行を予測する神経心理学検査の検討	竹田 伸也	臨床心理	600,000	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業助成金
卵巣明細胞腺癌に対するテムシロリスムを含む化学療法の有効性および安全性に関する研究	板持 広明	女性診療科群	4,000,000	補委	厚生労働省 科学研究費補助金
アンプロキソールによる神経型ゴーシェ病の治療法開発	難波 栄二	遺伝子診療科	5,000,000	補委	厚生労働省 科学研究費補助金

小計28件

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
運動失調症の病態解明と治療法開発に関する研究	中島 健二	神経内科	1,000,000	補委 厚生労働省 科学研究費補助金
神経変性疾患に関する調査研究 (-難治-一般-015)	中島 健二	神経内科	3,100,000	補委 厚生労働省 科学研究費補助金
神経皮膚症候群に関する調査研究 (H20-難治-一般-031)	吉田 雄一	皮膚科	900,000	補委 厚生労働省 科学研究費補助金
顧みられない寄生虫病の効果的監視法の確立と感染機構の解明に関する研究	井上 幸次	眼科	1,850,000	補委 厚生労働省 科学研究費補助金
ライゾゾーム病(ファブリー病含む)に関する調査研究 (H19-難治-一般-002)	成田 綾	脳神経小児科	2,000,000	補委 厚生労働省 科学研究費補助金
運動器疾患の評価と要介護予防のための指標開発および効果的介入方法に関する調査研究	萩野 浩	リハビリテーション部	1,000,000	補委 厚生労働省 科学研究費補助金
希少性難治性疾患患者に関する医療の向上及び患者支援のあり方に関する研究	中島 健二	神経内科	600,000	補委 厚生労働省 科学研究費補助金
次世代シーケンサーを用いた孤発生神経難病の発症機構の解明に関する研究	中島 健二	神経内科	1,800,000	補委 厚生労働省 科学研究費補助金
慢性ウイルス性肝疾患の非侵襲的線化評価法の開発と臨床的有用性の確立	孝田 雅彦	第二内科診療科群	500,000	補委 厚生労働省 科学研究費補助金
統合失調症に対する認知リハビリテーションの・・・	兼子 幸一	精神科	700,000	補委 厚生労働省 科学研究費補助金
小児期のウイルス性肝炎に対する治療法の標準化に関する研究	村上 潤	小児科	1,500,000	補委 厚生労働省 科学研究費補助金
大規模ゲノム疫学共同研究に夜認知症の危険因子および	中島 健二	神経内科	4,000,000	補委 厚生労働省 科学研究費補助金
危険因子を同定する検診制度導入によるリウマチ制圧プロジェクト	萩野 浩	リハビリテーション部	300,000	補委 厚生労働省 科学研究費補助金
癌治療におけるグレリンの包括的QOL改善療法の開発研究	清水 英治	第三内科診療科群	1,000,000	補委 厚生労働省 科学研究費補助金
咽喉頭癌に対する経口的ロボット支援手術の安全性・有効性に関する多施設臨床試験	北野 博也	頭頸部診療科群	8,000,000	補委 厚生労働省 科学研究費補助金
黄砂など大気粉塵がもたらす健康影響について基礎研究による検証	渡部 仁成	第三内科診療科群	1,433,000	補委 鳥取県 受託研究費
精神疾患の識別診断および転帰の予測における近赤外線スペクトロスコピー(NIRS)の有用性に関する研究	兼子 幸一	精神科	1,000,000	補委 国立精神・神経医療研究センター 受託研究費
障害者および高齢者に優しい頬粘膜保護装置の開発・実用化	領家 和男	歯科口腔外科	1,000,000	補委 ちゅうごく産業創造センター 受託研究費
高齢者の運動器疾患の調査とそれに係る新規長寿医療の開発【分担課題名】骨粗鬆症研究・頻度全	萩野 浩	リハビリテーション部	3,000,000	補委 国立長寿医療研究センター 受託研究費
本邦におけるHPpEPの実態に関する多施設共同調査研究【分担課題名】拡張機能データ解析	山本 一博	第一内科診療科群	500,000	補委 国立循環器病研究センター 受託研究費
高速シーケンス解析技術を応用した血中・体液中の遊離核酸による高感度分子診断法の基盤確立	松本 和也	第二内科診療科群	700,000	補委 がん研究センター 受託研究費
在宅用人工呼吸器の開発	鱈岡 直人	第三内科診療科群	3,153,150	補委 大分県産業創造機構 受託研究費
大腸検査の苦痛を解決するための触覚付き先端駆動式全周内視鏡の開発	植木 賢	次世代高度医療推進センター	6,317,850	補委 鳥取県産業振興機構 受託研究費
「創薬コンセプトに基づく戦略的治癒デザイン」の確立(卵巣がんにおける化学療法効果規定因子の探索におけ	大山 賢治	がんセンター	7,000,000	補委 文部科学省 受託研究費
黄砂のヒト健康への影響に対する臨床および基礎研究の融合アプローチ	渡部 仁成	第三内科診療科群	20,568,000	補委 環境省 受託研究費
初発の消化管間質腫瘍(GIST: Gastrointestinal Stromal Tumor)において治癒切除(R0/R1手術)を施行さ	池口 正英	第一外科診療科群	63,000	補委 公益財団法人先端医療振興財団 受託研究費
周産期医療に関わる専門的スタッフの養成	神崎 晋	小児科	25,032,000	補委 文部科学省
感染症対策特別促進事業	病院長 北野 博也	頭頸部診療科群	12,454,000	補委 厚生労働省

小計28件



研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
がん診療連携拠点病院機能強化事業	病院長 北野 博也	頭頸部診療科群	13,235,000	補委	厚生労働省
医師等環境改善事業	病院長 北野 博也	頭頸部診療科群	4,203,000	補委	鳥取県
地域医療向上研修会開催支援事業	病院長 北野 博也	頭頸部診療科群	9,437,000	補委	鳥取県
認定看護師養成研修受講補助事業	病院長 北野 博也	頭頸部診療科群	2,150,000	補委	鳥取県
広域搬送拠点臨時医療施設(SCU)整備事業	病院長 北野 博也	頭頸部診療科群	30,000,000	補委	鳥取県
周産期情報システム整備事業	病院長 北野 博也	頭頸部診療科群	20,994,000	補委	鳥取県
結核病床整備事業	病院長 北野 博也	頭頸部診療科群	4,751,000	補委	鳥取県
感染症医療提供体制強化事業	病院長 北野 博也	頭頸部診療科群	2,190,000	補委	鳥取県
救急勤務医支援事業	病院長 北野 博也	頭頸部診療科群	654,000	補委	鳥取県

合計90件

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

### 2 論文発表等の実績

#### (1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1	大倉毅 他	第一内科	The proinsulin/insulin (PI/I) ratio is reduced by postprandial targeting therapy in type 2 diabetes mellitus: a small-scale clinical study.	BMC Res Notes. 2013 Nov 11;6:453. doi: 10.1186/1756-0500-6-453.
2	伊澤正一郎 他	第一内科	Autoantibody against WD repeat domain 1 is a novel serological biomarker for screening of thyroid neoplasia.	Clin Endocrinol (Oxf). 2013 Jul;79(1):35-42. doi: 10.1111/cen.12121
3	岡本欣也 他	第二内科	miR-29b, miR-205 and miR-221 enhance chemosensitivity to gemcitabine in HuH28 human cholangiocarcinoma cells.	PLoS One. 2013;8(10):e77623. doi: 10.1371/journal.pone.0077623.
4	徳永志保 他	第二内科	Assessment of track microbubble flow signals on contrast-enhanced ultrasound with perflubutane following percutaneous liver biopsy.	Intern Med. 2013;52(13):1455-9. Epub 2013 Jul 1.
5	渡部仁成 他	第三内科	Effects on asthma and induction of interleukin-8 caused by Asian dust particles collected in western Japan.	J Asthma. 2014 Mar 27. [Epub ahead of print]
6	佐伯宗弘 他	第二外科	Single-Stage Endovascular Treatment Performed on Multiple Aortic Aneurysms in a Patient with Behçet's Disease-Report of a Case.	Ann Vasc Dis. 2013;6(4):734-7. doi: 10.3400/avd.cr.13-00061. Epub 2013
7	宮崎大 他	眼科	Pharmacologic inhibition of I $\kappa$ B kinase activates immediate hypersensitivity reactions in mice.	Am J Pathol. 2013 Jul;183(1):96-107. doi: 10.1016/j.ajpath.2013.04.006. Epub
8	谷口文紀 他	女性診療科	The cellular inhibitor of apoptosis protein-2 is a possible target of novel treatment for endometriosis.	Am J Reprod Immunol. 2014 Mar;71(3):278-85. doi: 10.1111/aji.12193.
9	谷口文紀 他	女性診療科	Clinical characteristics of patients in Japan with ovarian cancer presumably arising from ovarian endometrioma.	Gynecol Obstet Invest. 2014;77(2):104-10. doi: 10.1159/00035781
10	谷口文紀 他	女性診療科	Fibroblast growth factor receptor 2 expression may be involved in transformation of ovarian endometrioma to clear cell carcinoma of the ovary.	Int J Gynecol Cancer. 2013 Jun;23(5):791-6. doi: 10.1097/IGC.0b01
11	野村哲志 他	神経内科	Characteristics of obstructive sleep apnea in patients with Parkinson's disease.	J Neurol Sci. 2013 Apr 15;327(1-2):22-4. doi: 10.1016/j.jns.2013.01.036. Epub 2013

12	永島英樹 他	整形外科	Early surgical intervention for spinal infection in patients with malignancy requiring chemotherapy: report of two cases and review of the literature.	Eur J Orthop Surg Traumatol. 2013 Nov;23 Suppl 2:S155-8. doi: 10.1007/s00590-
13	山下秀樹 他	整形外科	Intramuscular myxoma of the buttock mimicking low-grade fibromyxoid sarcoma: diagnostic usefulness of MUC4 expression.	Skeletal Radiol. 2013 Oct;42(10):1475-9. doi: 10.1007/s00256-
14	山下秀樹 他	整形外科	Multifocal localized pigmented villonodular synovitis arising separately from intra- and extra-articular knee joint: case report and literature review.	Eur J Orthop Surg Traumatol. 2013 Nov;23 Suppl 2:S273-7. doi: 10.1007/s00590-
15	荻野和秀 他	卒後臨床研修センター	Spironolactone, not furosemide, improved insulin resistance in patients with chronic heart failure.	Int J Cardiol. 2014 Feb 15;171(3):398-403. doi: 10.1016/j.ijcard.2013.12.039. Epub
16	玉崎章子 他	脳神経小児科	Risk factors for acute pancreatitis in patients with severe motor and intellectual disabilities.	Pediatr Int. 2013 Oct 15. doi: 10.1111/ped.12231. [Epub ahead of print]
17	本田正史 他	泌尿器科	Supraspinal and spinal effects of L-trans-PDC, an inhibitor of glutamate transporter, on the micturition reflex in rats.	NeuroUrol Urodyn. 2013 Sep;32(7):1026-30. doi: 10.1002/nau.22351
18	本田正史 他	泌尿器科	Inhibitory role of the spinal galanin system in the control of micturition.	Urology. 2013 Nov;82(5):1188.e9-13. doi: 10.1016/j.urology.2013.06.056. Epub
19	足立孝司 他	皮膚科	Subchronic exposure of titanium dioxide nanoparticles to hairless rat skin.	Exp Dermatol. 2013 Apr;22(4):278-83. doi: 10.1111/exd.12121
20	藤井進也 他	放射線科	Peritumoral enhancement in endometrial cancer on dynamic contrast-enhanced imaging: Radiologic-pathologic correlation.	J Obstet Gynaecol Res. 2014 Mar 9. doi: 10.1111/jog.12318. [Epub ahead of
21	福井亮平 他	放射線科	Evaluation of a noise reduction procedure for chest radiography.	Yonago Acta Med. 2013 Dec;56(4):85-91. Epub 2013 Nov 28.
22	北尾慎一郎 他	放射線科	Correlation between pathology and neuromelanin MR imaging in Parkinson's disease and dementia with Lewy bodies.	Neuroradiology. 2013 Aug;55(8):947-53. doi: 10.1007/s00234-
23	遠藤涼 他	麻酔科	Bepriidil Suppresses Apoptosis in HL-1 Cardiac Atrial Myocytes Expressing Mutant E334K cMyBPC.	Yonago Acta Med. 2013 Dec;56(4):93-5. Epub 2013 Nov 28.
24	清水幸恵 他	麻酔科	Blocking of the ATP sensitive potassium channel ameliorates the ischaemia-reperfusion injury in the rat testis.	Andrology. 2014 Mar 7. doi: 10.1111/j.2047-2927.2014.00199.x. [Epub ahead of

25	清水幸恵 他	麻酔科	Olmesartan ameliorates urinary dysfunction in the spontaneously hypertensive rat via recovering bladder blood flow and decreasing oxidative stress.	Neurourol Urodyn. 2014 Mar;33(3):350-7. doi: 10.1002/nau.22405
26	岩本秀人 他	麻酔科	Serum miR-210 as a potential biomarker of early clear cell renal cell carcinoma.	Int J Oncol. 2014 Jan;44(1):53-8. doi: 10.3892/ijo.2013.2169. Epub 2013 Nov 7.
27	萩野浩 他	リハビリテーション部	Efficacy, tolerability and safety of once-monthly administration of 75mg risedronate in Japanese patients with involutional osteoporosis: a comparison with a 2.5mg once-daily dosage regimen.	Bone. 2014 Feb;59:44-52. doi: 10.1016/j.bone.2013.10.017. Epub 2013 Oct 29.
28	萩野浩 他	リハビリテーション部	Number and severity of prevalent vertebral fractures and the risk of subsequent vertebral fractures in Japanese women with osteoporosis: results from the minodronate trial.	J Bone Miner Metab. 2013 Sep;31(5):544-50. doi: 10.1007/s00774-
29	斉藤博昭 他	第一外科	Clinicopathologic characteristics and prognosis of advanced gastric cancer simulating early gastric cancer.	Yonago Acta Med. 2013 Sep;56(3):73-8. Epub 2013 Sep 11.
30	斉藤博昭 他	第一外科	Increased apoptosis and elevated Fas expression in circulating natural killer cells in gastric cancer patients.	Gastric Cancer. 2013 Oct;16(4):473-9. doi: 10.1007/s10120-
31	斉藤博昭 他	第一外科	Increased PD-1 expression on CD4+ and CD8+ T cells is involved in immune evasion in gastric cancer.	J Surg Oncol. 2013 Apr;107(5):517-22. doi: 10.1002/jso.23281. Epub 2012 Nov 5.
32	池口正英 他	第一外科	Scoring of prognostic parameters in patients with unresectable advanced or recurrent colorectal cancer undergoing chemotherapy.	Yonago Acta Med. 2013 Sep;56(3):69-72. Epub 2013 Sep 11.
33	池口正英 他	第一外科	Treatment of patients with stage IV gastric cancer.	J Gastrointest Cancer. 2013 Jun;44(2):199-202. doi: 10.1007/s12029-
34	山本一博 他	第一内科	Relation of risk factors with response to carvedilol in heart failure with preserved ejection fraction - A report from the Japanese Diastolic Heart Failure Study (J-DHF).	J Cardiol. 2013 Nov 25. doi:pii: S0914-5087(13)00326-2. 10.1016/j.jjcc.2013
35	山本一博	第一内科	The main target for inhibiting mineralocorticoid receptor-mediated signaling in cardiovascular diseases.	Hypertens Res. 2013 Jul;36(7):580-2. doi: 10.1038/hr.2013.42. Epub 2013 Apr
36	中村嘉伸 他	第二外科	A missing leaflet: a rare cause of structural deterioration of a bovine pericardial aortic bioprosthesis-report of a case.	Surg Today. 2013 May 23. [Epub ahead of print]
37	孝田雅彦 他	第二内科	Ablative margin states by magnetic resonance imaging with ferucarbotran in radiofrequency ablation for hepatocellular carcinoma can predict local tumor progression.	J Gastroenterol. 2013 Nov;48(11):1283-92. doi: 10.1007/s00535-

38	井上幸次 他	眼科	Multicentre clinical study of the herpes simplex virus immunochromatographic assay kit for the diagnosis of herpetic epithelial keratitis.	Br J Ophthalmol. 2013 Sep;97(9):1108-12. doi: 10.1136/bjophthal
39	鞆嶋有紀 他	周産期・小児医学	Familial short stature is associated with a novel dominant-negative heterozygous insulin-like growth factor 1 receptor (IGF1R) mutation.	Clin Endocrinol (Oxf). 2013 Aug 29. doi: 10.1111/cen.12317 . [Epub ahead of
40	遠藤宏治 他	整形外科	Sacral chordoma in an adult showing an aggressive clinical course: A case report.	Oncol Lett. 2014 May;7(5):1443-1446. Epub 2014 Feb 19.
41	原田省	生殖機能医学	Dysmenorrhea and endometriosis in young women.	Yonago Acta Med. 2013 Dec;56(4):81-4. Epub 2013 Nov 28.
42	板持広明 他	生殖機能医学	Checkpoint kinase inhibitor AZD7762 overcomes cisplatin resistance in clear cell carcinoma of the ovary.	Int J Gynecol Cancer. 2014 Jan;24(1):61-9. doi: 10.1097/IGC.00000000000014.
43	板持広明 他	生殖機能医学	Establishment and characterization of a novel ovarian clear cell adenocarcinoma cell line, TU-OC-1, with a mutation in the PIK3CA gene.	Hum Cell. 2013 Sep;26(3):121-7. doi: 10.1007/s13577-013-0062-y. Epub
44	島田宗昭 他	生殖機能医学	Comparison of the outcome between cervical adenocarcinoma and squamous cell carcinoma patients with adjuvant radiotherapy following radical surgery: SGSG/TGCU Intergroup Surveillance.	Mol Clin Oncol. 2013 Jul;1(4):780-784. Epub 2013 May 9.
45	島田宗昭 他	生殖機能医学	Nedaplatin: a cisplatin derivative in cancer chemotherapy.	Cancer Manag Res. 2013 May 8;5:67-76. doi: 10.2147/CMAR.S35785. Print 2013.
46	濱田紀宏 他	第一内科	A comparative study on the effectiveness of losartan/hydrochlorothiazide and telmisartan/hydrochlorothiazide in patients with hypertension.	Clin Exp Hypertens. 2013 Jul 18. [Epub ahead of print]
47	黒崎雅道 他	脳神経外科	A case report of sarcoma of the sella caused by postoperative radiotherapy for a prolactin-producing pituitary adenoma.	Brain Tumor Pathol. 2014 Jan 21. [Epub ahead of print]
48	中村廣繁	脳神経外科	Systematic Review of Published Studies on Safety and Efficacy of Thoracoscopic and Robot-Assisted Lobectomy for Lung Cancer.	Ann Thorac Cardiovasc Surg. 2014 Feb 28. [Epub ahead of print]
49	足立正 他	神経内科	Autopsy-confirmed progressive supranuclear palsy with decreased uptake of metaiodobenzylguanidine.	Clin Neurol Neurosurg. 2013 Aug;115(8):1555-7. doi: 10.1016/j.clineuro.
50	瀬島健裕 他	泌尿器科	Prognostic impact of preoperative hematological disorders and a risk stratification model in bladder cancer patients treated with radical cystectomy.	Int J Urol. 2014 Jan;21(1):52-7. doi: 10.1111/iju.12161. Epub 2013 May 27.

51	瀬島健裕 他	泌尿器科	Robot-assisted radical prostatectomy: a case series of the first 100 patients--constitutional introduction and implementation on the basis of comprehensive department of minimal	BMC Res Notes. 2013 Oct 30;6:436. doi: 10.1186/1756-0500-6-436.
52	瀬島健裕 他	泌尿器科	The significant immunological characteristics of peripheral blood neutrophil-to-lymphocyte ratio and Fas ligand expression incidence in nephrectomized tumor in late recurrence	Urol Oncol. 2013 Oct;31(7):1343-9. doi: 10.1016/j.urolonc.2011.09.008. Epub
53	瀬島健裕 他	泌尿器科	Fas expression in nephrectomized, non-cancerous specimens predicts post-nephrectomy chronic kidney disease progression in patients with renal and upper urinary tract malignancies.	Urol Oncol. 2013 Nov;31(8):1812-9. doi: 10.1016/j.urolonc.2012.04.011. Epub
54	瀬島健裕 他	泌尿器科	Oncological and functional outcomes after radical nephrectomy for renal cell carcinoma: a comprehensive analysis of prognostic factors.	Int J Urol. 2013 Apr;20(4):382-9. doi: 10.1111/j.1442-2042.2012.03176.x.
55	瀬島健裕 他	泌尿器科	Low pre-operative levels of serum albumin predict lymph node metastases and ultimately correlate with a biochemical recurrence of prostate cancer in radical prostatectomy patients.	Cent European J Urol. 2013;66(2):126-32. doi: 10.5173/ceju.2013.
56	吉田雄一 他	皮膚科	Metastatic basosquamous carcinoma detected by sentinel lymph node biopsy.	J Dermatol. 2013 Aug;40(8):635-7. doi: 10.1111/1346-8138.12204. Epub 2013 Jun 3.
57	三浦典正 他	薬物治療学	Human RGM249-derived small RNAs potentially regulate tumor malignancy.	Nucleic Acid Ther. 2013 Oct;23(5):332-43. doi: 10.1089/nat.2013.
58	武田賢一 他	臨床検査医学	The 6-minute pegboard and ring test is correlated with upper extremity activity of daily living in chronic obstructive pulmonary disease.	Int J Chron Obstruct Pulmon Dis. 2013;8:347-51. doi: 10.2147/COPD.S4
59	塩見達志 他	器官病理学	Clinicopathological study of invasive extramammary Paget's disease: subgroup comparison according to invasion depth.	J Eur Acad Dermatol Venereol. 2013 May;27(5):589-92. doi:
60	Nakabayashi, Motoki 他	器官病理学	PITX1 is a reliable biomarker for predicting prognosis in patients with oral epithelial dysplasia.	Oncol Lett. 2014 Mar;7(3):750-754. Epub 2013 Dec 24.
61	Murakami, Ichiro 他	分子病理学	Merkel cell polyomavirus DNA sequences in peripheral blood and tissues from patients with Langerhans cell histiocytosis.	Hum Pathol. 2014 Jan;45(1):119-26. doi: 10.1016/j.humpath.2013.05.028.
62	Murakami, Ichiro 他	分子病理学	High viral load of Merkel cell polyomavirus DNA sequences in Langerhans cell sarcoma tissues.	Infect Agent Cancer. 2014;9:15. doi: 10.1186/1750-9378-9-15.
63	Tatebe, Shigeru 他	第一外科	Feasibility study of alternate-day S-1 as adjuvant chemotherapy for gastric cancer: a randomized controlled trial.	Gastric Cancer. 2013 Aug 15. [Epub ahead of print]

64	Yanagihara, Kiyotaka 他	第一内科	Discharge use of carvedilol is associated with higher survival in Japanese elderly patients with heart failure regardless of left ventricular ejection fraction.	J Cardiovasc Pharmacol. 2013 Nov;62(5):485-90. doi: 10.1097/FJC.0000
65	Ikebuchi, Yuichiro 他	第二内科	Association of TIMP-1 and TIMP-2 gene polymorphisms with progression of liver fibrosis in patients with type C chronic liver disease.	Biochem Genet. 2013 Aug;51(7-8):564-74. doi: 10.1007/s10528-013-9587-8. Epub
66	Imamoto, Ryu 他	第二内科	Null anticarcinogenic effect of silymarin on diethylnitrosamine-induced hepatocarcinogenesis in rats.	Exp Ther Med. 2014 Jan;7(1):31-38. Epub 2013 Nov 7.
67	Kishina, Manabu 他	第二内科	Therapeutic effects of the direct renin inhibitor, aliskiren, on non-alcoholic steatohepatitis in fatty liver Shionogi ob/ob male mice.	Hepato Res. 2013 Jun 18. doi: 10.1111/hepr.12186. [Epub ahead of print]
68	Sugihara, Takaaki 他	第二内科	Fatty liver Shionogi-ob/ob mouse: A new candidate for a non-alcoholic steatohepatitis model.	Hepato Res. 2013 May;43(5):547-56. doi: 10.1111/j.1872-034X.2012.01101.x
69	ito, Shizuka 他	第三内科	Synergistic cell growth inhibition by the combination of amrubicin and Akt-suppressing agents in K-ras mutation-harboring lung adenocarcinoma cells: implication of EGFR tyrosine kinase	Int J Oncol. 2014 Mar;44(3):685-92. doi: 10.3892/ijo.2014.2249. Epub 2014 Jan
70	Kandori, Michiko 他	眼科	Relationship between the number of cytomegalovirus in anterior chamber and severity of anterior segment inflammation.	Jpn J Ophthalmol. 2013 Nov;57(6):497-502. doi: 10.1007/s10384-
71	Sasaki, Shin-ichi 他	眼科	Efficacy of herpes virus helicase-primase inhibitor, ASP2151, for treating herpes simplex keratitis in mouse model.	Br J Ophthalmol. 2013 Apr;97(4):498-503. doi: 10.1136/bjophthal
72	Kuwabara, Masanari 他	女性診療科	Relationship between serum uric acid levels and hypertension among Japanese individuals not treated for hyperuricemia and hypertension.	Hypertens Res. 2014 Mar 27. doi: 10.1038/hr.2014.75. [Epub ahead of print]
73	Takai, Eri 他	女性診療科	Parthenolide reduces cell proliferation and prostaglandin E2 [corrected] in human endometriotic stromal cells and inhibits development of endometriosis in the murine model.	Fertil Steril. 2013 Oct;100(4):1170-8. doi: 10.1016/j.fertnstert.2013.06.028. Epub
74	Uegaki, Kazunori 他	女性診療科	Outcome of stage IB2-IIB patients with bulky uterine cervical cancer who underwent neoadjuvant chemotherapy followed by radical hysterectomy.	Int J Clin Oncol. 2013 Apr 17. [Epub ahead of print]
75	Miyake, Naritomo 他	耳鼻咽喉科	Subglottic laryngeal closure: a unique modified method of laryngotracheal separation to prevent aspiration.	Ann Otol Rhinol Laryngol. 2013 Jul;122(7):427-34.
76	Miyake, Naritomo 他	耳鼻咽喉科	Pathological consideration of tracheo-innominate artery fistula with a case report.	Int J Pediatr Otorhinolaryngol. 2013 Aug;77(8):1322-4. doi:

77	Sakata, Shinji 他	小児科	Instability of KCNE1-D85N that Causes Long QT Syndrome: Stabilization by Verapamil.	Pacing Clin Electrophysiol. 2014 Feb 5. doi: 10.1111/pace.12360. [Epub ahead of
78	Nanjo, Yoshiro 他	整形外科	Clinical features and surgical outcomes of lumbar spinal stenosis in patients aged 80 years or older: a multi-center retrospective study.	Arch Orthop Trauma Surg. 2013 Sep;133(9):1243-8. doi: 10.1007/s00402-
79	Pu, Shenghong 他	精神行動医学	A pilot study on the effects of cognitive remediation on hemodynamic responses in the prefrontal cortices of patients with schizophrenia: A multi-channel near-infrared spectroscopy study.	Schizophr Res. 2014 Mar;153(1-3):87-95. doi: 10.1016/j.schres.2014.01.031. Epub
80	Pu, Shenghong 他	精神行動医学	Association between prefrontal hemodynamic responses during a cognitive task and subjective quality of life in schizophrenia.	Schizophr Res. 2014 Jan;152(1):319-21. doi: 10.1016/j.schres.2
81	Pu, Shenghong 他	精神行動医学	Association between subjective well-being and prefrontal function during a cognitive task in schizophrenia: a multi-channel near-infrared spectroscopy study.	Schizophr Res. 2013 Sep;149(1-3):180-5. doi: 10.1016/j.schres.2013.06.036. Epub
82	Pu, Shenghong 他	精神行動医学	Relationship between prefrontal function during a cognitive task and social functioning in male Japanese workers: a multi-channel near-infrared spectroscopy study.	Psychiatry Res. 2013 Oct 30;214(1):73-9. doi: 10.1016/j.psychre
83	Pu, Shenghong 他	精神行動医学	Association between cognitive insight and prefrontal function during a cognitive task in schizophrenia: a multichannel near-infrared spectroscopy study.	Schizophr Res. 2013 Oct;150(1):81-7. doi: 10.1016/j.schres.2
84	Tabuchi, Sadaharu 他	脳神経外科	Hydrocephalus with panventricular enlargement as the primary manifestation of neurosarcoidosis: a case report.	J Med Case Rep. 2013 Oct 14;7(1):240. doi: 10.1186/1752-1947-7-240.
85	Kudoh, Akiko 他	女性診療科	Dual inhibition of phosphatidylinositol 3-kinase and mammalian target of rapamycin using NVP-BEZ235 as a novel therapeutic approach for mucinous adenocarcinoma of the ovary.	Int J Gynecol Cancer. 2014 Mar;24(3):444-53. doi: 10.1097/IGC.0000
86	Tanaka, Kenichiro 他	神経内科	Impulsive compulsive behaviors in Japanese Parkinson's disease patients and utility of the Japanese version of the Questionnaire for Impulsive-Compulsive Disorders in Parkinson's disease.	J Neurol Sci. 2013 Aug 15;331(1-2):76-80. doi: 10.1016/j.jns.2013.05.013. Epub 2013
87	Hinata, Nobuyuki 他	泌尿器科	Coexistence of elastic fibers with hyaluronic acid in the human urethral sphincter complex: a histological study.	J Urol. 2013 Oct;190(4):1313-9. doi: 10.1016/j.juro.2013.04.023. Epub
88	Ito, Ayako 他	皮膚科	Case of interdigital pilonidal sinus in a dog groomer.	J Dermatol. 2013 Dec;40(12):1051-2. doi: 10.1111/1346-8138.12343. No abstract available.
89	Ito, Takamichi 他	皮膚科	Dermoscopy of peristomal polyps and metastasis of colon cancer.	Acta Derm Venereol. 2014 Jan;94(1):96-7. doi: 10.2340/00015555-1646. No abstract



90	Ito, Takamichi 他	皮膚科	Solitary nodule on the nose: a quiz.	Acta Derm Venereol. 2013 May;93(3):379-80. doi: 10.2340/00015555
91	Ito, Takamichi 他	皮膚科	Bilateral nevus comedonicus syndrome.	Yonago Acta Med. 2013 Jun;56(2):59-61. Epub 2013 Jul 12.
92	Ito, Takamichi 他	皮膚科	Disseminated skin lesions of IgG4-related disease.	Eur J Dermatol. 2013 Jul-Aug;23(4):519-20. doi: 10.1684/ejd.2013.2
93	Inoue, Chie 他	放射線科	Apparent diffusion coefficient (ADC) measurement in endometrial carcinoma: Effect of region of interest methods on ADC values.	J Magn Reson Imaging. 2013 Oct 31. doi: 10.1002/jmri.24372 . [Epub ahead of
94	Inoue, Chie 他	放射線科	Correlation of apparent diffusion coefficient value with prognostic parameters of endometrioid carcinoma.	J Magn Reson Imaging. 2013 Dec 12. doi: 10.1002/jmri.24534 . [Epub ahead of
95	Shimatani, Yasuhiko 他	放射線科	Clinical feasibility of pulmonary perfusion analysis using dynamic computed tomography and a gamma residue function.	Jpn J Radiol. 2013 Apr;31(4):243-52. doi: 10.1007/s11604-012-0175-3. Epub
96	Shinohara, Yuki 他	放射線科	Usefulness of monochromatic imaging with metal artifact reduction software for computed tomography angiography after intracranial aneurysm coil embolization.	Acta Radiol. 2013 Nov 11. [Epub ahead of print]
97	Shinohara, Yuki 他	放射線科	Hypertrophic olivary degeneration after surgical resection of brain tumors.	Acta Radiol. 2013 Apr 30;54(4):462-466. [Epub ahead of print]
98	Yamamoto, Shuichi 他	放射線科	Thermal influence of radiofrequency ablation for bone: an experimental study in normal rabbit bone.	Skeletal Radiol. 2014 Apr;43(4):459-65. doi: 10.1007/s00256-

計98件

- (注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が申請の前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。
- 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る)。
- 3 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。
- 4 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。
- 5 平成二十六年度中の業務報告において当該実績が七十件未満の場合には、平成二十六年度の改正前の基準による実績についても報告すること。

## (2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1	永井 慎太郎 他	看護部	患者からの暴力による看護師の心理的影響とコーピング行動	日本精神科看護学術集会誌56巻2号 Page107-111(2013.08)
2	永田 徳一郎 他	次世代高度医療推進センター	法線ベクトル法による乳房表面形態の新しい評価指標 乳房形態の乱れを検出する	米子医学雑誌 (0044-0558)65巻1号 Page28-34(2014.01)
3	遠藤 由香利 他	病理部	腎臓の悪性類上皮型血管筋脂肪腫の1例	日本臨床細胞学会雑誌(0387-1193)52巻4号 Page335-340(2013.07)
4	岸本 淳一 他	放射線部	CT-AECを用いた胸部単純CTから推定した心臓CT検査における個別管電流設定の検討	日本放射線技術学会雑誌(0369-4305)69巻5号 Page508-513(2013.05)
5	岸本 淳一 他	放射線部	【Multislice CT 2013 BOOK】臨床 Fast kVp switching dual energy CTの使用経験	映像情報Medical(1346-1354)45巻8号 Page100-105(2013.07)
6	近藤 博史	医療情報部	【経営・運営視点からの画像システム考】画像情報進展が指し示すものとは 医用画像システムのトレンドは今後いかなる方向に向かうか	新医療(0910-7991)40巻8号 Page24-29(2013.08)
7	近藤 博史	医療情報部	XDS、XDS-Iを用いた電子カルテ相互参照システムの拡張計画	日本遠隔医療学会雑誌(1880-800X)9巻2号 Page132-135(2013.10)
8	金坂 尚子 他	医療福祉支援センター	地域医療連携と看護 おしどりネット2の現状と今後の課題	日本医療情報学会看護学術大会論文集(2187-1469)14回 Page23-24(2013.07)
9	原田 省	女性診療科	病気について知りたい! 臨床講座 月経困難症治療薬 最近の考え方と治療動向	PharmaTribune(1883-4043)5巻12号 Page15-21(2013.12)
10	原田 崇 他	女性診療科	双胎の経膈分娩における第二子の周産期予後	日本周産期・新生児医学会雑誌 (1348-964X)49巻3号 Page920-924(2013.09)
11	原田 智也 他	第三内科	山陰地方における成人気管支喘息のガイドライン利用状況	日本胸部臨床 (0385-3667)72巻4号 Page423-430(2013.04)
12	佐々木 朋美	手術部	【完全保存版!術前・術中・術後のポイント攻略の決め手はココ!99種類の器具・器械・インプラントまるごと早わかりカード】ドリル類5	オペナーシング (0913-5014)29巻3号 Page243-245(2014.03)

13	原田 智也 他	第三内科	山陰地方での成人喘息患者に対する吸入ステロイド薬をはじめとした喘息治療薬の使用状況	臨床免疫・アレルギー科(1881-1930)59巻4号 Page537-542(2013.04)
14	山崎 章	第三内科	【COPDの併存症とその治療】他疾患患者におけるCOPDの合併	呼吸器内科(1884-2887)23巻6号 Page596-603(2013.06)
15	小島 奈央 他	検査部	経尿道的前立腺切除術を施行した先天性第V因子欠乏症の一例	医学検査(0915-8669)63巻1号 Page82-85(2014.01)
16	松永 知之 他	第一外科	術中所見でT4であったためY字胃管バイパス術を施行した1例	米子医学雑誌(0044-0558)65巻2号 Page57-61(2014.03)
17	松下 博亮	小児科	【解剖が分かる!症状と病態が理解できる!新生児画像診断の見かた・読みかたパーフェクトガイド】羊水の混濁が認められ、新生児仮死を来した児の画像所見は?	Neonatal Care(1341-4577)26巻7号 Page674-679(2013.07)
18	松原 真紀 他	手術部	【成人とは違ってココに着目!麻酔科医・看護師からみる小児麻酔の要注意ポイント】 看護師からみる小児麻酔の要注意ポイント	オペナーシング(0913-5014)28巻12号 Page1341-1346(2013.12)
19	松本 浩実 他	リハビリテーション部	3軸加速度計歩行分析によるロコモティブシンドロームスクリーニングの妥当性について	運動器リハビリテーション(2187-8420)24巻4号 Page383-389(2013.12)
20	松本 和也 他	第二内科	【胆管癌のリスクファクター】肝炎ウイルスキャリアにおける胆管癌のリスク	胆と膵(0388-9408)34巻6号 Page481-486(2013.06)
21	松本 和也 他	第二内科	【膵癌の早期発見をめざして】超音波内視鏡下生検・膵液細胞診併用による膵癌早期診断	消化器内科(1884-2895)57巻1号 Page56-62(2013.07)
22	曾田 武史 他	リハビリテーション部	【超音波画像を用いた理学療法評価法】 超音波画像を用いた呼吸筋の評価	理学療法(0910-0059)31巻1号 Page64-71(2014.01)
23	大山 賢治 他	がんセンター	【抗がん剤外来治療コンセプトシート2013】 設備環境・技術 外来化学療法センターの アメニティ	医学のあゆみ(0039-2359)246巻9号 Page695-700(2013.08)
24	大石 徹郎 他	女性診療科	がんの治療薬を知る 薬剤選択のための知識 HPVワクチン	臨床腫瘍プラクティス(1880-3083)9巻3号 Page321-324(2013.08)
25	中山 敏 他	形成外科	【マイクロサージャリーにおける合併症とその対策】各種皮弁における合併症 血管柄付き腓骨および腓骨皮弁	PEPARS(1349-645X)80号 Page68-73(2013.08)

26	中村 研介 他	卒後臨床研修センター	高齢で偶然発見された左肺底区動脈大動脈起始症の1例	臨床放射線(0009-9252)59巻3号 Page476-478(2014.03)
27	中村 真由美 他	看護部	【これからの新人看護職員研修 努力義務化から3年、今求められること】(3章)教育体制整備/指導体制、教育環境の整備 新たに整備した新人教育体制とその成果 鳥取大学医学部附属病院	看護(0022-8362)65巻4号 Page068-073(2013.03)
28	中村 廣繁 他	胸部外科	ご当地連携協議会だより(第27回) 鳥取県西部地区医療連携協議会 大学、地区医師会、保健局による包括的地域連携の構築	地域連携入退院支援5巻6号 Page116-118(2013.01)
29	中村 廣繁 他	胸部外科	わかりやすいキーワード解説 癌に対するロボット手術	コンセンサス癌治療(1347-4618)12巻4号 Page229(2013.11)
30	仲田 佑未 他	検査部	鳥取大学病院における血液およびカテーター培養由来の酵母様真菌と患者背景の検討	医学検査(0915-8669)62巻6号 Page735-740(2013.11)
31	仲田 佑未 他	検査部	Micro Scan WalkAway POSシリーズパネルにおけるS.aureusのVCM 2 $\mu$ g/mlのデータに関する検討	医学検査(0915-8669)63巻1号 Page90-93(2014.01)
32	藤井 春美 他	看護部	【「看護の質が…」ただの口癖になっていませんか?病棟の看護の質”を評価する やり方・使い方イロイロ!評価→改善・向上策】BSCと質評価概念枠組みで評価する看護の質 根拠に基づいた看護管理に生かす”	ナースマネジャー15巻6号 Page26-32(2013.09)
33	畑田 智子 他	小児外科	【小児NST病態栄養シリーズ:中心静脈栄養法の諸問題】血管造影ガイド下中心静脈カテーター挿入法	小児外科(0385-6313)45巻4号 Page373-375(2013.04)
34	福谷 洋子 他	看護部	【新人研修見直しの視点 求める看護師は育っているか】看護師としての成長を支援する「社会人基礎力評価」を導入した新人教育	看護展望(0385-549X)39巻4号 Page0349-0356(2014.02)
35	涌嶋 伴之助 他	薬剤部	日本DMATにおけるロジスティックス機能強化のための地方組織の在り方	日本集団災害医学会誌(1345-7047)18巻2号 Page160-166(2013.11)
36	廣田 勝彦 他	放射線部	大動脈ステントグラフト内挿術における被曝低減 当院における移動型Cアーム装置と固定型血管撮影装置の比較を含めて	IVR: Interventional Radiology(1340-4520)28巻3号 Page320-324(2013.07)
37	浅野 純子	歯科口腔外科	感染症からみたModern Nursing 歯科口腔外科領域の感染症	臨床と微生物(0910-7029)41巻1号 Page092-096(2014.01)

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。

3 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	有・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	有・無
・ 手順書の主な内容 1. 申請手順 2. 迅速審査	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年17回

(注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。

2 「③倫理審査委員会の開催状況」に係る報告については、平成二十六年度中の業務報告において開催実績が無い場合には、平成二十六年四月以降の実績を報告しても差し支えないこと（その場合には、その旨を明らかとすること）。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	有・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	有・無
規定の主な内容 (目的) 鳥取大学医学部附属病院における臨床研究の実施者及びその関係者の利益相反(以下「利益相反」という。)が深刻な事態へと発展することを未然に防止するため、臨床研究に係る利益相反の適切な管理(以下「利益相反マネジメント」という。)に関し必要な事項を定め、もって臨床研究の適正な推進を図ることを目的とする。 (利益相反マネジメントの対象及び基準) 利益相反マネジメントの対象者は、次に掲げる者 一 臨床研究実施者等 二 臨床研究実施者等の配偶者及び臨床研究実施者等と生計を一にする当該臨床研究実施者等の扶養親族 三 その他審査委員会が必要と判断した者 開示対象とする事項 一 経済的利益 二 経営関与 利益相反マネジメントは、臨床研究を実施するに当たり、被験者及び社会に対し、教育者・研究者又は医療関係者としての公正性に客観的な疑念を生じさせるか否かを判断基準として行うものとする。 (臨床研究実施者等の責務) 利益相反の発生が懸念される場合は、この規程に定めるところにより所定の手続きを経るほか、透明性、公正性の確保に自ら努める。	

<p>(臨床研究利益相反審査委員会の業務等)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>一 利益相反の防止に関すること。</li> <li>二 利益相反に係る調査及び審査に関すること。</li> <li>三 利益相反方針に関すること。</li> <li>四 その他利益相反マネジメントに関すること。</li> </ul> <p>(委員会組織)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>一 医学部倫理審査委員会委員長</li> <li>二 医学部附属病院治験審査委員会委員長</li> <li>三 医学部長が指名する教員 若干人</li> <li>四 その他審査委員会が必要と認めた者(外部委員含む。) 若干人</li> </ul> <p>ただし、委員の氏名は、公表しない。  その他、(利益相反マネジメントの手続き)、(緊急審査)、(審査委員会の公正性の確保)等を規定している。</p>	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年10回

(注) 「③利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況」に係る報告については、平成二十六年度中の業務報告において開催実績が無い場合には、平成二十六年四月以降の実績を報告しても差し支えないこと(その場合には、その旨を明らかとすること)。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年1回
<p>・研修の主な内容</p> <p>外部有識者を講師とした倫理セミナーを開催し、倫理的に妥当な臨床研究を実施するために、研究者が知っておくべき研究倫理の基本的な考え方及び注意事項等について具体例を踏まえてその概要を聴講した。</p>	

(注) 「①臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況」に係る報告については、平成二十六年度中の業務報告において実施実績が無い場合には、平成二十六年四月以降の実績を報告しても差し支えないこと(その場合には、その旨を明らかとすること)。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

・男性不妊症、受精障害、不妊症に対する顕微授精法・子宮内膜症合併不妊に対する腹腔鏡下手術・ボツリヌス毒素の膀胱内注入・非小細胞肺癌に対するWeekly・Paclitaxel の有用性に関する検討・複雑系理論を応用した睡眠時無呼吸障害患者の診断・音声再建・睡眠時無呼吸治療・急速減感作療法・再建外科を含む頭頸部腫瘍の治療・小児の難治性疾患に対する診断と治療に関する手技を研修・経動脈性門脈造影下CT、アンギオCTの手技及び診断・IVH・ヘルニア手術（執刀）・上部消化管内視鏡・上部消化管造影・脊髄誘発電位検査・小児難治性疾患に対する診断・植込型除細動器植込術・上室ならびに心室性頻拍症に対する高周波カテーテル焼却術・エキシマレーザーによる治療的レーザー角膜切除術（PTK）・エキシマレーザーによる近視矯正手術（LASIK）・マイクロケラトームを用いた角膜移植術・real-timePCRを用いたヘルペス性眼疾患診断・肺動脈カテーテル挿入術・経皮的冠動脈形成術、経皮的冠動脈ステント留置術・心臓再同期療法・心臓リハビリテーション・臨床心臓電気生理学的検査・ロボット支援前立腺全摘・ロボット支援腎部分切除・ステンドグラフトワークショップ・がんのリハビリテーション・熱傷手術・ロボット支援膀胱全摘術
---

2 研修の実績

研修医の人数	47人
--------	-----

(注) 前年度の研修医の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
山本 一博	内分泌代謝内科 /循環器内科	主任診療科長	28年	
村脇 義和	消化器内科/ 腎臓内科	主任診療科長	39年	
清水 英治	呼吸器内科/ 膠原病内科/ アレルギー科	主任診療科長	36年	
兼子 幸一	精神科	診療科長	29年	
神崎 晋	小児科	診療科長	35年	
池口 正英	消化器外科/ 小児外科	主任診療科長	34年	
西村 元延	心臓血管外科	診療科長	31年	
中村 廣繁	胸部外科/ 乳腺内分泌外科	主任診療科長	30年	
永島 英樹	整形外科/ リウマチ科	診療科長	26年	
山元 修	皮膚科	診療科長	32年	
武中 篤	泌尿器科	診療科長	28年	
井上 幸次	眼科	診療科長	33年	
北野 博也	耳鼻咽喉科/ 頭頸部外科	主任診療科長	34年	
小川 敏英	放射線科/ 放射線治療科	主任診療科長	35年	
原田 省	産婦人科	主任診療科長	31年	

稲垣喜三	麻酔科	主任診療科長	33年
領家 和男	歯科口腔外科	診療科長	39年
長谷川 純一	薬物療法内科	診療科長	35年
中山 敏	形成外科	診療科長	26年
本間 正人	救急科	診療科長	26年
本倉 徹	血液内科	診療科長	32年
中島 健二	神経内科	診療科長	37年
渡辺 高志	脳神経外科	診療科長	38年
前垣 義弘	脳神経小児科	診療科長	26年
難波 栄二	遺伝子診療科	診療科長	33年
梅北 善久	病理診断科/ 神経病理診断科	主任診療科長	27年
千酌 浩樹	感染症内科	診療科長	26年

(注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

(注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。



(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）

「ホスピタリティ研修」

- ・研修の主な内容           ホスピタリティを体験学習から学び資質の向上を図る
- ・研修の期間・実施回数   平成25年4月9日～4月10日（2日間）
- ・研修の参加人数           81名

「防犯研修」

- ・研修の主な内容           職員の安全意識高揚を図るとともに有事の対応について習得を目指す
- ・研修の期間・実施回数   平成25年6月25日、平成25年7月4日（2回）
- ・研修の参加人数           92名

② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）

「病院マネジメント研修」

- ・研修の主な内容           病院を取り巻く環境を理解させ、マネジメント技術の向上を目指す
- ・研修の期間・実施回数   平成25年8月26日～8月28日（3日間）
- ・研修の参加人数           7名

「情報セキュリティ研修会」

- ・研修の主な内容           個人情報保護の取扱い、情報セキュリティ対策、情報漏えい対策について理解を深める。情報セキュリティポリシー遵守の意識の向上と大学等での事件事故を盛り込みながら情報漏えい啓発。
- ・研修の期間・実施回数   2回
- ・研修の参加人数           35人

③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況

- ・研修の主な内容
- ・研修の期間・実施回数
- ・研修の参加人数

(注) 1 高度の医療に関する研修について記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。なお、平成二十六年度中の業務報告においては、平成二十六年四月以降の実績（計画）を報告しても差し支えないこと（その場合には、その旨を明らかにすること）。

## (様式第 5)

## 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画 (2) 現状
管理責任者氏名	病院長 北野 博也
管理担当者氏名	総務課長、源 憲治、医療サービス課長 鬼村 博幸

		保管場所	管理方法
診療に関する諸記録 病院日誌、各科診療日誌、処方せん、手術記録、看護記録、検査所見記録、エックス線写真、紹介状、退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書		総務課 医療情報部 薬剤部 各診療科	外来カルテ、入院カルテは電子カルテにて中央管理 紙媒体によるものはスキャンにて電子保存 電子化されているものは電子カルテ管理 エックス線写真は電子カルテにて中央管理（一部フィルムにて各診療科保管） 病院日誌は、紙ベースにて日付順に保管
病院の管理及び運営に関する諸記録	従業者数を明らかにする帳簿	総務課	
	高度の医療の提供の実績	医療サービス課	
	高度の医療技術の開発及び評価の実績	経営企画課	
	高度の医療の研修の実績	総務課 医療サービス課	
	閲覧実績	総務課	
	紹介患者に対する医療提供の実績	医療サービス課	
	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医療サービス課 薬剤部	
第規一則号第一に掲げる十の十一の第一項各号及び第九の二	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全管理部	
	医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療サービス課	
	医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全管理部	
	医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全管理部	
	専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	総務課	
	専任の院内感染対策を行う者の配置状況	総務課	

	第十 第一 項	医療に係る安全管理を 行う部門の設置状況	総務課 医療サービス課	
		当該病院内に患者か らの安全管理に係る相 談に適切に応じる体制 の確保状況	医療サービス課	

		保 管 場 所	管 理 方 法
病院の管理 及び運営に 関する諸記 録	規 則 第 一 条 の 十 一 第 一 項 各 号 及 び 第 九 条 の 二 十 三 第 一 項 第 一 号 に 掲 げ る 体 制 の 確 保 の 状 況	院内感染のための指 針の策定状況	感染制御部
		院内感染対策のため の委員会の開催状況	医療サービス課
		従業者に対する院内 感染対策のための研修 の実施状況	感染制御部
		感染症の発生状況の 報告その他の院内感染 対策の推進を目的とし た改善のための方策の 実施状況	感染制御部
		医薬品の使用に係る 安全な管理のための責 任者の配置状況	総務課
		従業者に対する医薬 品の安全使用のための 研修の実施状況	医療安全管理部 薬剤部
		医薬品の安全使用の ための業務に関する手 順書の作成及び当該手 順書に基づく業務の実 施状況	医療安全管理部 薬剤部
		医薬品の安全使用の ために必要となる情報 の収集その他の医薬品 の安全使用を目的とし た改善のための方策の 実施状況	医療安全管理部 薬剤部
		医療機器の安全使用 のための責任者の配置 状況	総務課
		従業者に対する医療 機器の安全使用のため の研修の実施状況	医療安全管理部 MEセンター
		医療機器の保守点検 に関する計画の策定及 び保守点検の実施状況	MEセンター
医療機器の安全使用 のために必要となる情 報の収集その他の医療 機器の安全使用を目的 とした改善のための方 策の実施状況	MEセンター 医療安全管理部		

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理

方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第 6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画	②. 現状
閲覧責任者氏名	病院長 北野 博也	
閲覧担当者氏名	総務課長、源 憲治、医療サービス課長 鬼村 博幸	
閲覧の求めに応じる場所	相談室	
閲覧の手続の概要		
① 情報公開は、請求者が「開示請求書」を情報公開窓口（総務企画部総務課広報企画係）に提出する。		
② 大学は開示・不開示の決定を行い、「決定通知書」により請求者へ通知する。		
③ 請求者は、開示の実施方法・希望日を「開示の実施方法の申出書」により窓口へ申し出、開示実施手数料を支払う。		
④ 開示（閲覧）を実施する。		

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	0 件
閲覧者別	医 師	延 0 件
	歯 科 医 師	延 0 件
	国	延 0 件
	地方公共団体	延 0 件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

(様式第 6)

規則第 1 条の 1 1 第 1 項各号及び第 9 条の 2 3 第 1 項第 1 号に掲げる体制の確保の状況

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	○有・無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <p>(1) 安全管理に関する基本的考え方 (2) 安全管理のための組織に関する基本的事項 (3) 医療安全管理のための医療従事者に対する研修に関する基本方針 (4) 医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策に関する基本方針 (5) 医療事故発生時の対応に関する基本方針 (6) 本院における医療従事者と患者との間の情報の共有に関する基本方針 (7) 患者等からの相談への対応に関する基本方針 (8) その他医療安全の推進のために必要な基本方針</p>	
② 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	年 1 2 回
<p>・ 活動の主な内容：</p> <p>・ 医療に係る安全管理体制の確保及び推進を図り、医療事故等及び医療行為に基づく医事紛争に対する防止策等について審議する。</p> <p>(審議事項)</p> <p>・ 医療に係る安全管理のための指針の策定・整備に関すること ・ 医療に係る安全管理のための教育・研修の企画・立案に関すること ・ 医療に係る安全確保を目的とした改善のための方策に関すること ・ 医療事故等及び医事紛争を防止するために必要な啓発及び対策に関すること ・ 医療事故等発生時の対応、事実確認並びに医療安全の確保及び医療事故等の再発防止に関し   病院長から命を受けたこと ・ その他医療に係る安全管理体制の確保及び推進に関すること</p>	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 6 7 回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <p>・ 職員全体研修会 (2 回)   第 1 回「対話のソフトウェアとしての医療メデイエーション概念～関係構築のために」   第 2 回「医療事故調査における第三者機関設立の動きと医師法第 2 1 条の解釈と対応」</p> <p>・ 医療安全取り組み報告研修会 (1 0 回) ・ 転倒・転落対策セミナー (1 回) ・ 出前研修会 (1 回) ・ DVD 視聴研修会 (8 回) ・ 部署別 DVD 研修会 (1 回) ・ 病院情報システム操作研修会 (1 7 回) ・ 効果的な酸素療法 (2 回) ・ 輸液ポンプ・シリンジポンプ・経腸栄養ポンプ研修会 (2 回) ・ インスリン療法研修会 (4 回)</p>	

- ・人工呼吸器研修会（1回）
- ・輸液ポンプ・シリンジポンプ指導者育成研修会（2回）
- ・J-VAC研修会（2回）
- ・除細動器（2回）
- ・BLS研修会（2回）
- ・経皮的気管切開術（1回）
- ・生体情報モニター（2回）
- ・人工呼吸器非侵襲的陽圧換気療法（1回）
- ・新採用・中途採用オリエンテーション（6回）

④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況

- ・ 医療機関内における事故報告等の整備（有・無）
- ・ その他の改善のための方策の主な内容：

（報告の分析）

1. 医療安全管理者が、インシデント報告書を基に①内容、②原因と要因、③改善策、④患者影響レベル、⑤患者及び家族への対応と反応等について現場で確認を行っている。
2. 1を基に問題点を抽出し、現場や院内全体での改善策を講じている。

（検討方法）

1. 医療安全管理者を中心に、院内リスクマネジメント専門委員会委員が、インシデント報告についてカンファレンスを実施し、再発防止対策を検討する。
2. GRMは毎月の事例を分析し報告書を作成、リスクマネジメント専門委員会・医療事故防止等対策委員会・病院運営会議・統括医長会議・リスクマネジメント担当者連絡会・看護師長会議で報告し検討している。
3. 事例によっては、クオリティ審査専門委員会・医療事故調査委員会での審査を行う。

⑤ 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況 有（1名）・無

⑥ 専任の院内感染対策を行う者の配置状況 有（1名）・無

⑦ 医療に係る安全管理を行う部門の設置状況 有・無

- ・ 所属職員： 専任（1）名 兼任（9）名
- ・ 活動の主な内容：

- ・ 医療安全に関わる委員会の運営並びにその記録等の作成及び保存に関すること
- ・ 医療安全に係る教育・研修の企画・立案・運営に関すること
- ・ 医療事故に関する診療録や看護記録等への記載が正確かつ十分になされていることの確認を行うとともに、必要な指導を行うこと
- ・ 患者や家族への説明など事故発生時の対応状況について確認を行うとともに、必要な指導を行うこと
- ・ 医療事故の原因究明が適切に実施されていることを確認するとともに必要な指導を行うこと
- ・ 医療安全に係る連絡調整に関すること
- ・ その他本院における医療安全対策の推進に関すること

⑧ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況 有・無



(様式第 6)

院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有・無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"><li>1. 院内感染対策に関する基本的考え方</li><li>2. 感染管理組織に関する基本的事項</li><li>3. 院内感染対策のための職員研修に関する基本方針</li><li>4. 感染症の発生状況の報告に関する基本方針</li><li>5. 院内感染発生時の対応に関する基本方針</li><li>6. 患者等に対する「病院感染対策のためのマニュアル」の閲覧に関する基本方針</li><li>7. 院内感染対策推進のために必要な基本方針</li></ol>	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 1 2 回
<p>・ 活動の主な内容：</p> <p>以下の事項について審議する</p> <ol style="list-style-type: none"><li>1. 感染予防の対策に関すること</li><li>2. 感染予防対策実施の監視及び指導に関すること</li><li>3. 感染予防に係る情報の収集に関すること</li><li>4. 感染の発生原因及び感染経路の調査に関すること</li><li>5. その他感染予防に関すること</li></ol>	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 7 2 回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 職員全体研修会（5回） 鳥インフルエンザ対応含む第二種感染症指定医療機関としての対応 耐性菌抑止のための診療アプローチ～入院患者の発熱～ 多剤耐性菌対策～アウトブレイク対応と平常時の対応～ 多剤耐性アシネトバクター集団発生事例で学んだこと 多剤耐性菌対策～継続的に実施しよう、手順を見直そう～</li><li>・ 第二種感染症指定医療機関としての対応シミュレーション（1回）</li><li>・ 第二種感染症指定医療機関としての対応出前研修（1回）</li><li>・ 基本的な感染対策の手技出前研修（1回）</li><li>・ アウトブレイク対応研修会（6回）</li><li>・ 医療安全への取り組み報告研修会（2回） NICUの取り組み、感染対策リンクナース会活動報告</li><li>・ 研修医・看護師・看護助手研修（4回）</li><li>・ DVD研修（2回）</li><li>・ 新採用者研修（25回） 感染管理組織、標準予防策、手指衛生、個人防護具、針刺し・血液曝露対策と曝露後対応</li><li>・ 新採用者出前研修（9回）</li></ul>	

- 針刺し防止対策、医療廃棄物の取り扱いについて演習  
・病棟手指衛生研修（16回）

④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況

- ・ 病院における発生状況の報告等の整備 （有・無）
- ・ その他の改善のための方策の主な内容：
  - ・ 感染症診療カンファレンスによる抗菌薬耐性菌検出患者・血液培養陽性患者・MRSA感染症治療薬投与患者などの診断・治療・感染対策の検討
  - ・ 病棟ラウンドによる感染対策実施状況確認と現場指導
  - ・ サーベイランスによる感染症情報の把握とアウトブレイクへの対応
  - ・ 感染制御部メンバーによる定期ミーティング

(様式第 6)

医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	○有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 2 2 回
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 研修の主な内容：<ul style="list-style-type: none"><li>・ 医療安全への取り組み報告研修会（2回） 次期システムの説明「内服薬処方せん記載方法の標準化対応について」 NICUの取り組み 医療安全の取り組み</li><li>・ インスリン療法研修会（4回） インスリン注射基礎知識、血糖測定の基礎知識</li><li>・ 静脈注射院内認定看護師育成研修（2回）</li><li>・ DVD視聴研修会（5回）</li><li>・ 薬剤師出張研修（9回） 精神科病棟で汎用される薬剤について ジェネリック医薬品について 麻薬勉強会 リツキサシ、アブラキサシについて 新規経口抗凝固薬とPD治療薬 MEAMレジメンについて 造影剤について 持参薬インシデントについて</li></ul></li></ul>	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 手順書の作成 （○有・無）</li><li>・ 業務の主な内容：<ul style="list-style-type: none"><li>・ 医薬品の採用・購入に関する事項</li><li>・ 医薬品の管理に関する事項（麻薬等の管理方法等）</li><li>・ 患者の持参薬歴情報等の収集方法、処方せんの記載方法</li><li>・ 患者に対する与薬や服薬指導に関する事項</li><li>・ 医薬品の安全使用に係る情報の取り扱いに関する事項</li><li>・ 他施設（病院等、薬局等）との連携に関する事項</li></ul></li></ul>	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 医薬品に係る情報の収集の整備 （○有・無）</li><li>・ その他の改善のための方策の主な内容：  (情報収集の方法)<ul style="list-style-type: none"><li>・ 医療安全管理部および医薬安全に係る委員会と連携し、院内で発生するインシデント等の情報収集</li><li>・ 病院で発生する副作用・感染症情報の把握</li><li>・ 厚生労働省、医薬品医療機器総合機構、製薬企業からの情報提供（口頭、インターネット、書面等）</li></ul></li></ul>	

(情報の周知方法)

緊急性、重要性、対象により、以下の方法等による周知を図る

- ・新採用者または全職員を対象に開催する研修会
- ・書面や医療情報システム掲示板・院内メールを利用した情報提供
- ・医師等の個人に直接情報提供

(様式第 6)

医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	①・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 50 回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <p>対象：輸液ポンプ・シリンジポンプ、モニタ、除細動器、アンビュ、人工呼吸器、保育器、透析濾過装置、血液浄化装置、人工心肺装置、PCPS、IABP、高気圧酸素治療装置、その他</p> <p>内容：準備方法等、使用方法や主な観察点、注意点、安全情報で特に重要なもの、院内のインシデントレポートを参考にした注意点について実施</p>	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<p>・ 計画の策定 ( ③・無 )</p> <p>・ 保守点検の主な内容：</p> <p>・ MEセンターで直接管理している医療機器については、点検の対象機器及び方法を定めセンターでの定期点検、現場定期点検、使用前点検、使用中点検、使用後点検に区別して点検記録簿を作成し管理保管している。</p> <p>・ 現場管理が主体となる放射線装置については、部署の担当責任者が管理し、MEセンターはそれらの医療機器の定期点検表、修理点検表等の写しを提出してもらい、一括管理保管する。</p> <p>・ 保守・修理・点検にあたっては、計画の作成に参画し業者との窓口としての業務を行っている。院内で定期点検する場合は、メーカーの技術講習会を受けたMEが実施、点検項目や頻度はメーカー推奨を参考に作成している。</p> <p>・ 精度、機能、安全機構、ソフトのバージョン等メーカー技術講習に準じて実施。オーバーホールも含む。</p>	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・ 医療機器に係る情報の収集の整備 ( ④・無 )</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <p>(情報収集の方法)</p> <p>医療機器の添付文書、取扱説明書の安全使用・保守点検に関する文書を整理し管理する。また、院内で発生する医療機器に関する不都合情報はすべてMEセンターに報告してもらい、製造販売会社から適切な対処方法に関して情報提供を求め、医療安全管理部、リスクマネジメント専門委員会と協議協力して、院内へ周知する。また、これら不都合情報のうち適正かつ安全な医療遂行に支障を来すような内容については病院長に報告し、厚生労働省への報告を検討する。</p> <p>(情報の周知方法)</p> <p>医療機器の不都合情報・安全情報等は、当該医療機器に直接携わる関係者には口頭、文書で通知し、院内には「MEセンター瓦版」、「リスクマネジメント便り」、あるいは医療情報システムを利用して情報提供を行う。さらに、研修会実施時に情報提供を行い周知を図っている。</p>	

(様式第 7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類（任意）

1 病院の機能に関する第三者による評価

① 病院の機能に関する第三者による評価の有無	有・無
・評価を行った機関名、評価を受けた時期 評価を行った機関名 : 公益財団法人 日本医療機能評価機構 評価を受けた時期 : 2010年4月2日	

(注) 医療機能に関する第三者による評価については、日本医療機能評価機構等による評価があること。

2 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	有・無
・情報発信の方法、内容等の概要 本院の最新情報及び地域からのニーズ、また旬な情報を発信している。 ホームページ 随時更新 広報誌 医療情報誌「ささら」 2回発行 とりだい病院ニュース 4回発行 新聞 特集 2回掲載 ケーブルテレビ 毎月放送 セミナー 3回シリーズを2回開催	

3 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	有・無
・複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要 本院では、低侵襲外科センターにおいて、外科系各診療科の壁を越えて疾患に対応することはもとより、低侵襲手術の技術向上と教育を行っている、	

また、脳とこころの医療センターにおいて、複数科にまたがる、あるいは複数科でみるべき疾患に対応しているほか、

・褥瘡対策チーム、・緩和ケアチーム、・糖尿病医療支援チーム、・栄養サポートチーム、・感染対策チーム、・転倒・転落予防チーム、・生殖医療チーム、・呼吸サポートチーム  
など、多職種が連携し組織横断的に対応を行う体制を整備している。